

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

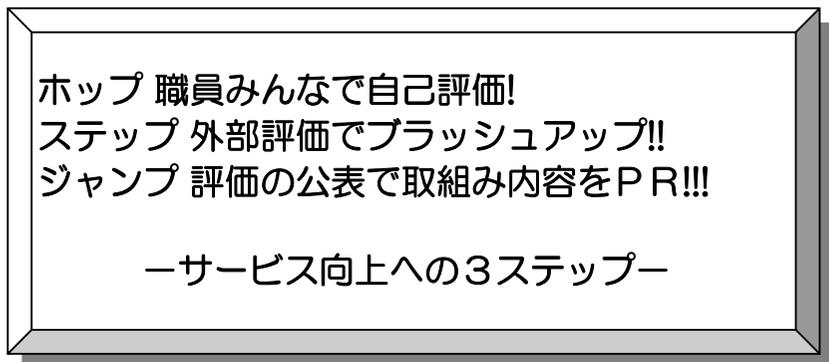
I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制



【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 11 月 29 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3891000048
事業所名	グループホーム秦皇
(ユニット名)	ほたるユニット
記入者(管理者)	
氏名	松田 幸博
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>お1人、おひとりご自由に安心して暮らせるようにします。地域の方の力を借り共にこの地で仲良く生活出来るようになります。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 (目標)</p> <p>①地域行事には積極的に参加、事業所の行事に地域住民を招待する。地域行事に参加できる企画を立案する。 ②運営推進会議等で定期的に目標達成計画の状況を報告する。状況により助言を頂く。 ③地域への避難訓練の参加を呼びかける。地域参加の避難訓練を企画する。警察に協力を依頼する。警察署協力のもと防犯訓練を企画する。 (結果)</p> <p>①市町村と連携して災害避難訓練が実施できた。通報・メールでのネットワークを利用することができた。 ②新型コロナウイルス感染予防のため運営推進会議が開催出来ていない。アンケート等にて意見を頂いている。 ③警察の協力のもと防犯訓練を実施することができた。今年度も開催する予定である。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>中山地区の幹線道路沿いのコンビニエンスストアの近くに事業所はあり、窓から自然豊かな山々の風景が眺められる。コロナ禍において、地域住民に新たに運営推進会議のメンバーになってもらい、感染状況を見計らいながら、約1年前の12月に集合形式の会議が実施されるとともに、実際に事業所内の様子を見てもらい、活発な意見交換が行われている。その後は、会議の文書開催が続いているものの、参加メンバーや家族にアンケート形式で意見を聞き、その結果を伝えるなど、少しでも有意義な会議となるよう工夫されている。また、新たに地域の駐在所に働きかけ、事業所の防犯訓練を行うなど、前向きに地域との繋がりが交流が図られている。法人は、南予方面を中心に、いくつもの介護サービス事業所の運営を行い、医師である代表者の往診や訪問看護との連携が図られ、医療面や終末期支援にも、利用者や家族、職員には安心感がある。さらに、法人・事業所として、待遇面や資格取得の支援、福利厚生の実美など、働きやすい職場環境が整えられ、10年以上の長年に渡り勤務している職員が多く、利用者や家族との馴染みの関係も築かれている。加えて、職員は利用者の希望に沿いながら、穏やかに楽しみのある生活が送れるよう支援している。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	日頃の会話に耳を傾け記録にも残して好きなことを行ってもらっている。	○	/	○	入居時に、職員は利用者から思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。日々の関わりの中で、職員と利用者が2人きりになる時間を活用して、ゆっくりと話しを聞き、思いや希望を伝えやすい機会を設けるとともに、職員は思いに気づくことができるよう心がけている。また、希望を伝えにくい利用者には、家族や関係者から情報を聞くとともに、職員が表情や言動から、思いをくみ取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	相手の立場になってかんがえている。表情など常に観察している情報をもとに。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	コロナの関係で面会がなく行えていないが、電話で聞く事はあり新しい情報を頂く事がある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメント等を利用している。いつでも読めるようにしている。家族に連絡した時にどのように過ごされていたか聞くこともある。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	1人での判断にならない様常に他者と相談しながらきめている。ご本人の思いは何気ない言葉、態度にあると思われるため会話に注意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	入所された時も聞いているが、面会が出来ていないため、電話で収集することもある。	/	/	◎	入居前に、アセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や趣味、生きがい、馴染みの暮らし方などの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から、情報を聞くこともある。アセスメントシートには、心身状況などの詳細な情報が記載されているほか、6か月に1回情報が更新され、職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	その方の得意な事や、やりがいがあることなどをみて何が出来て何がしたいのか考慮している。不安や不安定にならている時の状態を共有し、これまでの情報を踏まえ要因について考えている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	介護記録や申し送り等で一人ひとりの生活を把握しケアカンファレンスでも話し合っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	御本人の目線で考え利用者様だったらどう思われるかを考え検討・話し合いも行っている。	/	/	○	把握した情報をもとに、利用者本人が何を求めて必要としているかを、毎月実施するカンファレンスの中で、心身状態や課題などを話し合い、なるべく利用者の視点に立って、より良いサービス提供に努めている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアカンファレンスなどで情報を共有し課題を明らかにし支援している。御本人にとっては自宅がやはり、良いと考える。いろんな事情によりホームでの生活を送るため自宅にいるような雰囲気などを考え検討している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	意思の疎通が出来る方は話し合い、意向に沿うこともできている。意思の疎通が出来ない方には、本人の意向を把握しきれていない。	/	/	/	事前に、利用者や家族から意見を聞くほか、医師などの関係者の指示や意見、希望をもとに、職員間で課題を話し合い、計画作成担当者が意見などを取りまとめて介護計画を作成している。コロナ禍において、担当者会議には外部から家族などの参加ができず、電話などで意見を確認している。また、家族には、定期的にモニタリング表を確認してもらい、その都度意見や評価などの聞き取りをしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	ケアカンファレンスで話し合い、その人に合った支援をみんなで考えている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度になっても他の利用者様と同じ空間で過ごせるように計画し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナにより地域との協力体制はとれていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	日々の記録でも確認出来るようにしており、共有できている。	/	/	/	○ 利用者一人ひとりの介護記録の様式の上の部分に、介護計画の短期目標とサービス内容が転記され、記録する際に、職員は計画を確認しながら記載できるようになっている。また、サービス内容ごとに番号が付けられ、サービスを実施した際には番号を連動させて、介護記録に分かりやすく記載され、計画に沿った実施状況を確認しやすくなっている。記録の書き方には職員間で個人差が見られるが、職員は発した言葉や表情などの状況を、丁寧に分かりやすい記載に努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画にそって支援できている。記録もその都度実施している。毎月モニタリングを行い、サービスがその人にあっているか確認している。個別に記録して言葉・表情等しっかり書くよう取り組み支援に繋げている。職員の気づきや工夫などは現場で話し合いカンファレンスなどで発表して記録に残しているが、すべてではない。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間でも見直ししているが、体調などの変化があった時などはその都度見直しを行っている。	/	/	/	◎ 介護計画の期間に応じて、計画を見直すほか、毎月実施するカンファレンスの中で、利用者一人ひとりの状況や課題の検討をしている。また、各利用者の担当職員が、他の職員の意見を参考にしながら、モニタリングを行い、利用者の現状を確認するとともに、管理者がモニタリング表などを活用して、状況の再確認をしている。さらに、利用者の状態に変化があった場合には見直しを行い、現状にあった介護計画の作成に努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ケアカンファレンスを毎月1回おこなっている。その時現状確認を全員でおこなっている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人、家族、職員と話し合い現状に即した計画を作成するよう取り組んでいる。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	体調面、心身面共に変化等がある時はその都度臨時会議を行っている。	/	/	/	◎ 月1回ユニットごとに、ケアカンファレンスを実施し、利用者の状態や課題などを職員間で検討するとともに、情報共有が行われている。同じ日に、全ての職員が参加した業務カンファレンスが行われ、内部研修の実施ほか、全体で共有すべき内容などの周知が図られている。また、緊急の話し合いが必要な場合には、迅速な対応を行うとともに、他の職員にも内容を伝達している。カンファレンスで話し合われた内容は議事録に残すとともに、やむを得ず参加できなかった職員には議事録を確認してもらい、内容の共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	しっかり気づき等を発言し意見交換出来ている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	開催日時は全員が参加できるように、仕事が落ち着く時間に開催している。記録に残しファイリングしていつでも確認出来るようにしている。記録で伝わりにくい所は口頭にて確認している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	介護記録や介護業務日誌等に記録して確認したら各自印を押している。隣棟とも申し送りを全職員が利用者様の様子等を周知出来るように取り組んでいる。朝、夕の申し送りに、各自印を押している。申し送りノート等で内容を共有している。	○	/	/	◎ 日々の申し送りを実施している。ユニットごとに、申し送りノートと業務日誌が設けられ、勤務前に職員は必ず確認するとともに、確認後にはサインを残し、職員間の情報共有に繋げている。また、職員は、相互に両ユニットの業務日誌に目を通して、日々の利用者の状況を確認するなど、事業所全体での情報共有に努めている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	本人に聴いたり、水やりや電話をかけるなど、個別に「したいこと」ができるよう努力している。	/	/	/	○ 事業所では、入浴や食事の時間などの1日の流れがある程度決められて、各ユニットの分かりやすい場所に掲示をしている。職員は利用者一人ひとりに声をかけて、事前に決められた以外の他の時間帯の過ごし方の希望を聞き、自己決定してもらえようような支援に努めている。利用者から、「ぬり絵をもっとしたい、うどんが食べたい、息子に会いたい」などの意見が出され、職員間で検討をした上で、可能な範囲での早期の対応に努めている。また、職員は利用者の好きなことや得意なことを把握しており、歌や塗り絵、畑の世話など、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	日課はあるが本人の決定により参加している。参加されない時は原因を追究するようにしている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の意思を尊重しベースを合わせたりその人の習慣を大切にしている。夕食後も気の合う人たちと話をされている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が活き活きとした声で声掛けし明るく笑顔で接して話しやすい雰囲気づくりが出来ていると思われる。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	△	本人の表情やしぐさなどに注意しているが本人の意向に沿っているかは不明である。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	研修等に参加して人とどうすべきなどを学び意識して行動している。身体拘束委員会でも話し合っている。時々、大きな声での声掛けもあり十分な配慮が必要である。	○	○	○	○ 内部研修で、職員は利用者に対する人権や尊厳などを学んでいる。また、カンファレンスの中で、声かけやケアの配慮などを職員間で話し合うとともに、気になったことや良かったこと、感じたことの情報共有を行うなど、利用者の尊厳等への意識を高めている。さらに、職員は居室を利用者のプライベートな空間であることを理解して、入室時にはノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時にも、事前に利用者へ声をかけて、一緒に入室することを心がけている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレや浴室の扉の開閉などは、常に配慮し介護を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時は声掛けとノックを行い同意を得て出入りする様に気を付けている。出る時は必ず閉めるようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報漏えいの問題は把握できている。それを理解し対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者様と職員が互いに「ありがとう」と言える関係が築けていると思われる。また、利用者様から昔の事も色々教えて頂いている。				利用者同士が、言い合いやたたくなどの感情をぶつけ合う場面が見られるものの、職員は早期に間に入り、意見を聞くなどの落ちつくような対応をしている。また、職員は利用者の性格や関係性を把握して、配席の考慮をしたり、仲の良い利用者同士と一緒に座ったりするなどの配慮に努めている。さらに、車いすを押すの手伝ったり、立つのを援助したり、励ましの声をかけ合うなど、利用者同士の支え合いや助け合いを行う場面も見られる。訪問調査日には、一緒に体操をしたり、同じテーブルを囲んで、塗り絵や会話をしている利用者同士の仲睦まじい様子を見ることができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	洗濯物置きや下膳等いろいろ手伝って頂き助けてもらっている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者様同士で仲良く会話をされたり、話題を提供している。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	△	トラブルになられた時は距離をおいてもらったり、職員が間にはいる。利用者同士が支えられるようには話などが出来るようあらかじめスタッフが前準備をする。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族関係等少しずつ把握できるよう努力している。本人様や家族様等に関して把握する様になっているが把握しきれていない。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたい、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナの影響で面会もなくなり出ていないが、ホームに来られた時は椅子や飲み物を用意して居心地良く過ごして頂けるようにしている。隣の棟の知人に会いに行き楽しく会話をされる事もある。新型コロナウイルス感染予防のため外出や支援ができていない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナのため外出支援は出来ていないが、中庭での散歩支援を行っている。リクイニングの車椅子により戸外にて日光浴などを行っている。現在は新型コロナウイルス感染予防のため出来ていないが、収束したら個々の希望に応じた外出支援に取り組みたいと思っている。	×	×	△	コロナ禍以前は、スーパーへ利用者と一緒に買い物に出かけたり、外出に出かけたりすることができていたものの、現在は外出の制限が設けられ、中止をしている。コロナ禍において、外出できる機会は減っているものの、日頃から事業所周辺を散歩したり、デッキに出て日光浴をしたり、敷地内にある畑の世話をするなど、職員は利用者が屋外へ一歩出て、外気に触れるとともに、気分転換が図れるよう支援している。また、季節に応じて、ドライブでコスモスや桜などの花を見に出かけるなど、人混みを避けて、遠出ができる機会を設けることもある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	他の方の協力を得ながらの支援はできていない。新型コロナウイルス感染予防のため支援できていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の研修や勉強会等で理解はできていると思われるが要因を取り除くケアは少しずつ行っている。				職員は、利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握して、自らできることはしてもらい、なるべく手を出さずできるように声かけや見守りを行っている。日々の生活の中で、車いすの使用の利用者にはなるべく自走してもらったり、洗濯物たたみや調理の手伝いをするなどの生活リハビリを取り入れたりと、散歩や体操をしてもらうなど、職員は利用者の心身機能の維持が図れるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	介護計画に取り入れて、日々の体操やレクリエーションなどで自然に楽しく維持向上できるように取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	車椅子移乗などできる方には安全を踏まえ見守りしている。依存症の強い方には本人が出来るよう声掛け・見守りしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	何が得意か好きな事が把握している。				洗濯物干しやたみ、調理、食器洗いなどの役割を、職員は利用者積極的に担ってもらえるよう支援している。野菜づくりが得意な利用者には、中庭の畑の世話や水やり、草引きなどの役割を担ってもらうとともに、利用者が職員に野菜栽培の方法を教える場面も見られ、感謝の言葉を伝えている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	何もしない、生きがいになるものがない、ではさみしいので楽しく過ごせるよう取り組んでいる(新聞折り、色塗り、計算、ゲーム、家事や畑仕事など)コロナで地域の行事が中止されており、地域の方とのふれあいができていない。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人が。選ばれた物とかはその人らしいものなので尊重している。				各居室には、鏡付きの洗面台が設置され、ひげ剃りや化粧のほかに、整髪や着替えなどの身だしなみを整えている利用者もいる。整容の乱れや汚れが見られた場合には、職員がさりげなく声をかけて、フォローを行うなどの清潔保持に努めている。また、2か月に1回訪問美容の来訪があり、希望に応じて、白髪染めやカラーの対応も可能で、利用者に喜ばれている。中には、ベッド上で過ごすことが多い利用者もあり、日中と夜間のメリハリが持てるように着替えを行うとともに、重度の利用者にも、負担の少ない着替えやすい衣類を着用してもらっている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	○	できるだけ本人の望まれる物で対応するよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員同士でその方の今までの情報をとんで考えていく。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	自分で出来る方は自分で選んでもらったり、確認して対応している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくてさびしくカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	大きな声等出さず、さりげなく声かけをし、自室や洗面台へ誘導して対応している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	出張美容師に全員の方散髪していただいているので望むお店にはおつれてきていない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	定期的美容師の方に来ていただき本人らしい髪型にしている。また、職員も着替えの時など洋服をその方の好きな色形を考えている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				食材は、地域のスーパーに宅配してもらうとともに、法人本部で作成された献立のアレンジを行い、利用者に調理の下ごしらえや後片づけなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。事業所の中庭にある畑で栽培された旬の野菜を使用したり、旬の食材を使用して季節を感じるメニューを取り入れたりするなどの工夫された食事は、利用者に喜ばれている。訪問調査日には、利用者も一緒におやつのおはぎ作りを行う利用者の様子を見ることができた。食物アレルギーの有無は、アセスメントシートにチェック欄が設けられ、職員間で把握を行い、必要に応じて、代替えの食材を用意するなどの対応をしている。また、利用者の状態に応じて、刻み食やミキサー食にするなどの対応もしている。くり棟では、利用者の高齢化や重度化に伴い、食事の際に、見守りや食事介助が必要な利用者が増加して、職員は利用者と一緒に食事を摂っている。ほとんどの利用者が自分で食事を摂ることができ、職員と一緒に食卓を囲み、同じ食事を食べることができている。さらに、食器類は使い慣れた物の持ち込みを可能としているものの、破損などもあり、事業所で用意した使いやすい物を使用している利用者も多い。キッチンにはリビングに面しており、利用者は調理の匂いや音、様子などを感じられるほか、食事前には、口腔ケア体操を行い、食事が待ち遠しくなるような雰囲気も感じられる。加えて、事業所には栄養士まではいないものの、定期的な献立のバランスや調理方法などを話し合うとともに、必要に応じて、医師からアドバイスをもらっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	後片付けや下膳テーブル拭きは、出来る方にしていただき、他はほぼ職員のみでしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	買い物は行っていない。野菜の皮むきや野菜を切ったりしてもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所の時に聞いて把握しているが、入所してから分かる物もあり、都度スタッフ全員で把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのもの等を取り入れている。	△	季節の物でない方が多い。昔懐かしい物も少ない。中庭で作っている野菜を使うこともある。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	食事にあった器に盛り付けをして、個々の状態に応じ主治医や看護師と相談しながら刻み食やミキサー食・トロミ剤の活用・栄養補助食品等も提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	できるだけ丈夫で使いやすい物を選び、誕生日にプレゼントしている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	新型コロナウイルス感染予防のため、時間をずらして食事をとっている。食事の途中で席を立てられる利用者に配慮、皆さんをそばで見守る。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理に興味のある方は、キッチンが直ぐ見える位置に座ってもらって食材に触れたり調理中の会話や音や香り配膳の様子を見て楽しんで頂ける様に配慮している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	ひとり1人の食事チェック表がある。それを見て一日の摂取量の確保を考えている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分にトロミをつけたり、プリン、ゼリー等の喉越しの良い物を提供したり、低栄養の方には医師と相談して栄養補助食品等にして、その人に合った食事を提供した。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	順番で献立は立てているが、行事等の関係上、事業所ごとで変更している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理道具、布巾等の消毒。食材は前日納品される。保存は冷凍冷蔵。食材を残さないようにとめている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口の中のマッサージ等は研修・勉強会等で、とても大切な事であると理解している。	/	/	/	毎食後、職員は利用者に声をかけ、リビングや居室にある洗面台で、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。自分で口腔ケアができる利用者の口腔内の状況を含めて、定期的に、職員は全ての利用者の口腔内を確認することができている。また、見守りやサポートをしている利用者には、磨き残しなどの確認を行い、異常が見られた場合には、早期の歯科医の往診に繋げている。さらに、定期的に、歯科医の往診があり、口腔ケアのアドバイスや指導を受けて、職員は口腔ケアの重要性を理解している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に観察しながら対応している。不具合があった場合は地元の歯医者者に訪問診療をお願いしている。	/	/	/		○
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医や歯科衛生士の指導を取り入れていない。	/	/	/		/
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	ご本人がされるのを見守りしている。上手くできない方には声掛けしたり職員が実施している。義歯洗浄にポリドントを使用。	/	/	/		/
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎日口腔ケアはできている。介助にて口腔ケアをされる方は口の中のチェックがしやすいが、ご自分でされる方のチェックができていない。協力医院を受診、また、近くの歯科医に連絡して往診にきてもらっている。	/	/	/		/
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	トイレで排泄が実施できる事がご本人にとって自信につながったり、笑顔になったりすること職員は理解できている。	/	/	/	寝たきり状態の利用者は、常時おむつを使用しているものの、事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。また、カンファレンスの中で、利用者一人ひとりのパッドなどの排泄用品の適切な使用などの話し合いを行うとともに、状態に応じて、過剰なトイレ誘導や介助とならないように、可能な範囲で、自立支援に向けた検討も行われている。中には、夜間のみポータブルトイレを使用することで、パッドの使用量が削減されるとともに、利用者本人のストレス軽減に繋がった事例もある。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	本人の食欲減退、不機嫌、腹痛、腸閉塞等の影響がある。	/	/	/		/
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	△	習慣やパターンをわかっているが、兆候を把握しきれず失敗になっている。	/	/	/		/
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	△	オムツの必要性や適切性について少しずつ検討をしてケアカンファレンスで話し合い見直しを行っている。	/	◎	/		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	職員同士の日々の話の中で要因や誘因をさぐっている。具体的にはなっていない。	/	/	/		/
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	△	出来ている利用者様もおられるが、兆候の見逃しがある。	/	/	/		/
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	夜間に使用するおむつなどは、変更した方が良いと思われる場合家族等に連絡し相談をしている。	/	/	/		/
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	△	布の下着の方や紙おむつの方おられるが、入所前からの状態である。ひとり1人の状態に合わせて職員が随時使い分けていない	/	/	/		/
i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	自然排便を促す為、日々の飲み物に牛乳の提供。また、立ち上がり運動や、入浴時に腹部をあたため「の」の字のマッサージを実施している。	/	/	/	/			
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	職員の都合で決めている所もあるが本人の意思を確認して支援している。週2〜3回の支援に努め、湯加減などに関しては希望に沿って行っている。	/	/	◎	△	その日の日勤帯の職員の勤務体制により、事業所では入浴できる時間帯が決められているものの、入浴回数などの調整が行われ、利用者は週2〜3回入浴することができる。各ユニットに、一般的な個別浴槽が設置されているが、重いの利用者も、湯船に浸かることができるように、職員はいすやシャワーチェアなどを効率的に使用するとともに、介助方法の工夫が行われている。また、季節に応じて、ゆず湯などの対応もしている。さらに、職員は利用者がゆっくりとリラックスしながら入浴できるように心がけた支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	職員と話をしながらゆっくり入浴できており、足浴や浴槽につかって入浴を楽しむ様に支援している。重度の方も手足浴ができる支援している。	/	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で出来る範囲をして頂き、出来ない戸頭を支援している。	/	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	家族等にその方にとどんな思いがあるのかを聞き取り、いきなり入浴の時間だから入るというのではなく、事前に話を聞いて気持ちが穏やかに安心して入浴できるように心がけている	/	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタルチェックを実施。数字だけではなく本人の、入浴日前後の様子も確認して入浴の可否を決定している。	/	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	その方のパターンは申し送りや記録等にて把握している。	/	/	/	事業所には、入居前から継続して睡眠導入剤などを服用している利用者がある。また、夜間の不眠や昼夜逆転が見られる場合には、すぐに薬剤に頼ることなく、不眠の原因を職員間で検討するとともに、医師への相談を行い、日中の過ごし方や対応などの指示やアドバイスを受けることもある。さらに、不眠が続く場合には、利用者の体調面を考えて、医師へ相談を行い、眠剤などを処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	不眠の原因を探るといことは話し合い実施しているが生活のリズムを整える工夫は取り組んでいる。日光浴、体操、レクリエーションに参加、一日の生活リズムを整えている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	昼夜逆転の方とか夜中々眠れない方もしくは様子をみるようにしている。ケアカンファレンスで排泄や過ごし方等の気づきを話し合い安眠できる様に支援を行っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	日中はリビングのソファで過ごされたり、自室で過ごされたりと、本人の意思を確認しながら支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話や手紙のやり取りが出来るような支援ができています。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	家族へのお礼をしたい時に電話をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話をかけたいたいの訴えがあれば電話をかける支援体制はとれている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	何か届いた時には電話をしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人が電話をかけることには理解していただいている。家族の方に電話をお願いをしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	こちらで管理しているのでできていない。コロナのため日常的に使う機会は作れていないが、移動販売を利用して好みの買い物もされている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物に殆んど行けてない。買い物先の理解や協力を得る働きかけができていない。買い物に行けない、と決めつけているところもある。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金を所持している方は一人おられるが、それを使うようには支援できていない。今の所は使いたいとの要望は全く持っていない事で安心をされている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	使い方については家族の方と話し合い確認している。個人で持つことは構わないが契約上、紛失しても責任は持たないと言う事を説明している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	おこづかいとしてホームで預かり、預り証を発行している。出納帳の確認をして月1回家族に送っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	専門の医療機関への通院受診援助と希望があれば療養マッサージを受けることが出来る様に取り組んでいる。	◎	/	◎	コロナ禍において、事業所では外出や面会などの制限が設けられ、利用者や家族から出された要望には、職員間で検討を行い、可能な範囲で対応をしている。また、感染状況を見計らいながら、家族と利用者が一緒に病院を受診するほか、法事などの行事に出かけられるよう対応したこともある。さらに、外部のマッサージのサービスを利用している利用者もいる。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	新型コロナウイルス感染予防のため、面会を中止している。	◎	○	△	国道沿いのコンビニエンスストアの裏に事業所はあり、道路からも建物が目につきやすくなっているが、コンビニの駐車場と間違えて事業所の駐車場に入ってくる車もあり、家族からも、「入り口が分かりにくい」などの意見も出されている。また、門扉には、事業所名が表示されているものの、迷う家族などがいるため、管理者は、国道沿いに看板などの設置を検討している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に季節向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない狭風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	玄関には地元の方が手作りのひな人形や花などを飾っている。台所の調理の匂いも日常生活の一部となっている。	○	○	◎	リビングの窓からは、自然な豊かな山々の風景を眺められ、共用部分には採光が入り明るく、風通しも良く、快適な空間となっている。両ユニットの間にはデッキのある中庭が設置され、利用者は気軽に屋外に出て、歌を歌ったり、体操や外気浴をしたり、畑の世話などを楽しんでいる。訪問調査日には、各ユニットにクリスマスの装飾が飾られ、華やいた雰囲気が感じられた。また、リビングの一角には畳スペースが設けられ、利用者が洗濯物たたみなどを行う場所として、活用されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい時はカーテンで遮光したり各部屋は換気、フロアは空気清浄機を置いて、心地よい清潔な空間づくりをしている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の生花を活けたり中庭には季節の花野菜を植えて散歩で季節を五感で感じられる様にしている。また、フロアの壁には季節を感じる物や皆で手作りの作品を掲示し季節感を感じつつ回想出来る様な工夫をしている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	自由に居場所を行き来できており、個々の好みの場所が各々がそこで過ごせる様にしている。ソファにてくつろげる方もおられる。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	生活空間を出来るだけ変えない様に本人や家族に相談をして使い慣れた物を持参して頂いている。椅子や毛布など使い慣れた物を持って来られている方もいる。	○		◎	居室にはエアコンやベッド、タンスのほか、鏡付き洗面台が備え付けられている。また、使い慣れた家具や雑貨、ラジカセ、テレビなどの希望の物を持ち込み、利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	不安や混乱を招く様な物品は出来るだけ目につかない様に不安や混乱を最小限に抑える様に努めている。自室の表札を自分で取り除かれたり点灯が気になる為に紙で遮断する等の工夫をしている。ほうき・ちりとり・台布巾・本・マンガ・新聞などがいつでも手に取れるようにしている。自室には家族の写真や馴染みの物が置かれている。			○	トイレや浴室の表示、居室入り口の名札は、利用者の目線に合わせて設置され、認識しやすいように工夫されている。リビングの時計は、どこからでも確認しやすいように、2か所設置されている。また、時計の近くには、1日のスケジュールと日付が貼られ、利用者が時間の流れを把握しやすくなっている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	コロナのため日常的に使う機会は作れていないが、移動販売を利用して好みの買い物をされている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることなく済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	利用者様ご本人の立場になって考えた時自ずと理解できる。閉じ込められたと思わずにはられない状況。人としての感情を考えた時理解できている。日中、鍵はかけずに過ごしており、利用者様の動きを常時把握できるように、そっと見守りしている。	◎	○	◎	日中に、玄関の施錠はしておらず、気候のいい場合には、網戸仕様にすることもある。また、夜間のみ防犯のため、玄関の施錠をしている。玄関から入ると各ユニットが入り口があり、設置されているセンサーチャイムで、職員は利用者や来訪者の出入りを把握しやすくなっている。さらに、外に出たい利用者には、職員が付き添って、一緒に屋外に出たり、落ち着くような声かけをしたりするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠を望む家族様は現在はおられません。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメント、経過観察記録等に記入してすぐに見える様にしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	9時にはバイタルチェックを行い異常時には再測定を行い体調の変化に留意している。経過観察記録、介護記録、介護業務日誌に記録して継続して把握できる様にしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	24時間体制で主治医や看護師に常に相談できている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所前の受療状況を把握している。情報を確認している。医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人、家族と話し合い適切な医療を受けられるよう支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果や状態の変化があった時には家族様に伝える事ができている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には情報提供書と生活状況書を作成し病院に渡している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院との情報交換、相談はできている。異常がある時は常にかかりつけ医や看護師に報告して医療機関との連携をとり協力体制を図っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	職員は関りの中で得た情報や気づきを医療連携看護師に相談したり主治医に連絡している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	体制は整えられている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	医療連携体制加算をとっている。その為状態変化が生じた時は看護師、主治医に速やかに連絡をし対応している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	病院、薬局からの薬の情報を確認し理解をして服薬して頂いている。薬の目的・副作用・容量を理解し、症状の変化に気を配り経過観察に記録・情報提供を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬は一人一人日付名前が印刷、一色化されており、服薬後も確認ができる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	毎日確認を行っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に医療行為対応希望書を書いて頂くが体調の変化に伴い家族と話し合い意向を確認しながら方針を共有している。				事業所には、「重度化及び看取りに関する指針」があり、入居時に、家族等に対応できることの説明を行い、同意を得ている。医師である法人代表者は、事業所に往診等で来訪するとともに、医師や訪問看護との医療連携体制も整備され、利用者や家族の希望に応じて、看取り介護を支援している。また、利用者が重度化した場合には、医師から家族に説明を行うとともに、家族や主治医、関係者で方針の共有を行い、終末期の支援を行っている。必要に応じて、職員は家族の声を医師に伝えながら、連携を図っている。さらに、看取りに関する職員研修も行われ、職員への理解促進と負担軽減に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化、終末期に、なられた場合は常に、本人、家族、職員、主治医、医療関係者で話し合い方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員には力量に差があり、ケアに不安があるときは他の職員も一緒に支援できるよう取り組んでいる。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	介護において私たち事業所ができる事、出来ない事を詳しく説明を行い理解をえている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療部門や介護部門で話し合いまた家族も含め、キーパーソン以外の方も一緒に今後の対応を考えていく				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	日頃より状態を伝えている。重度になられたときはその都度状態の変化を伝え、少しでも家族の支えになれるよう努める				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会、研修等にて対応策等について定期的に学んでいる。三カ月に一回感染症対策委員会を開催している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	取り決めに沿って、コロナ感染症に対応するシミュレーションやノロウイルス発生時のシミュレーションを行った。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	伊予市役所からの感染症に対する予防策などがメールで届いており、周知徹底を行っている。テレビ、ラジオなど、また地域住民よりの情報などをもとに対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗い・消毒・マスク着用をし、来訪者にはフロアに入られる前にマスク着用・消毒・検温をして頂く。利用者様には手洗いはまたは、手拭にて対応している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族と共に利用者様を支えるという考えを職員はもっている。コロナの感染状況に応じて面会の仕方を変えている。	/	/	/	コロナ禍において、面会等の制限が設けられ、家族が参加した行事の開催は自粛している。コロナ禍以前は、クリスマス会の行事に合わせて家族会を開催し、家族同士の意見交換や交流を図ることもできていた。また、感染対策を行いながら、家族とのガラス越しや玄関先での面会に対応をしている。毎月、事業所の行事や出来事、新入職員の紹介、日常を楽しむ利用者の様子の写真が多く掲載した機関紙をユニットごとに発行され、送付を楽しみにしている家族もいる。また、家族の来訪時や電話連絡時を活用して、職員は利用者の近況を伝えている。長年勤務する職員も多く、家族との馴染みの関係が築かれている。コロナ禍において、事業所へ家族が来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、事業所の出来事や運営上の事柄、職員の入退職などが十分に伝わっていないことが窺えるため、機関紙を活用して、より分かりやすく職員の入退職を伝えたり、職員の入れ替わりがない場合は、年度末にその旨を伝えたりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	新型コロナウイルス感染予防のため面会や外出、行事の参加ができなかった	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	○ 日常の暮らしぶりは、便り、電話などでお伝えしている。	/	○	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	○ 認知症への理解 キーパーソン以外の家族に病気の説明をし理解につとめる。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	△ 行事などは協力を得ている。職員の異動退職等の報告をしていない。	×	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	○ 利用者様の考えられることを説明している。しかしその事で利用者様が制限されることが少なくなるよう話あっている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	◎ 家族の不安や、希望など、どの職員にも伝えたり相談ができるようにしている。利用者様の様子、健康状態など伝えるようにしている。家族が来られた時プランのことなど説明時にそれ以外のことなど話された時に具体的に話されることがあり、聞き漏らさないようにし不安や知りたいことなど伝えられるようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	○ 理解 納得を得ている。事前に文書にてご案内をかけ、しかるべき日時に、会社側より説明会を開き同意を得る。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	○ ホームの方からの退居はない。またその場合は次の施設、または病院をホーム側が探すという体制がある。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	△ 特別にそのような機会をもうけてはいない。運営推進会議、などで、目的、役割を説明。	/	◎	/	コロナ禍において、多くの地域行事の中止が継続され、地域住民と利用者が交流できる機会は減少している。地域のスーパーの食材配達を利用したり、運営推進会議のメンバーに働きかけ、事業所に関わってもらったりするなど、コロナ禍においても、管理者は、地域との繋がりが継続できるよう努めている。また、地域の駐在所に働きかけ、警察官に来訪してもらい、防犯訓練などの指導も実現している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	× 新型コロナウイルス感染予防のため面会や外出、行事の参加ができなかった。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	× 以前より少なくなったように思う	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	× 気軽に来られてはいない。ホームに気軽さがあまりないように思う。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	× 回覧板や集金時に挨拶や世間話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	× 殆んどできていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	△ 食材搬入に訪れる地元業者からの情報などをホーム運営に反映させている。地域資源は把握しているが、利用者様のために活用できていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	△	12月に開催した時には、家族・地域の方の参加があった。コロナの感染状況によって、開催の可否を決め、開催できない時はアンケートを実施している。	×	/	○	コロナ禍において、運営推進会議は書面開催が多くなっているものの、約1年前の12月に、感染状況を見計らいながら、対策を講じた上で、集合形式の会議を実施することができたこともある。集合形式の会議開催の際には、新たに参加メンバーになった地域住民や家族の参加協力があり、メンバー同士の顔合わせのほか、事業所内の様子を見てもらい、活発な意見交換が行われている。その後は、感染拡大防止のため、文書開催が続いているが、参加メンバーや家族にアンケートを実施して、助言や意見を聞いた上で、その結果を伝えるなど、書面開催においても、少しでも有意義な会議となるように努めている。また、会議には、地域のスーパーや理髪店にも、参加協力をしてもらい、事業所の広報啓発にも繋がっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	会議にて、評価の内容を報告したがその後の目標達成計画の内容、取り組み状況については報告していない。会議を開催出来ていないので、アンケートをとり、その結果を次回で報告、又は文章で報告している。議事録は公表していない。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	構成員が参加しやすいように時間帯を検討した。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	業務カンファレンスで話し合い理念を決めた。ホームに掲示し認識しながら取り組んでいる。個人は好きなこととして過ごされている。地域の力は借りれてない。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ホーム内に理念を掲げている。地域・家族には発信していない。	×	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者が一人ひとりの力量を把握して研修を受けるよう取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	計画的には行っていない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の評価シートを活用し面接等を行って向上心を持って働けるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	勉強会、研修等に参加できる機会はつくられている。同業者とのネットワーク作りも少しずつできている。地域密着型サービス協会加入	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者は定期的に会議を開催している。職員については個別に行っている(年2回面談等)	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	研修、勉強会等で学び理解している。勉強会等において対応や手順について学んでいる。虐待防止委員会を三か月に一回行っている。	/	/	○	内部研修やカンファレンス時に、具体的に不適切ケアなどの内容を職員間で話し合いをしている。どのような行為が不適切ケアに該当するかを理解して、職員同士も注意し合う環境も整えられている。また、職員は利用者へのスピーチロックを行われないように努めている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、管理者等に伝えるとともに、該当職員への確認を行い、注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日常において日頃のケアの話し合いをしており、ケアカンファレンスでも日頃のケア等の話し合いも行っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	職員は常に緊張感をもって利用者様に接している。職員には常に注意は払っているつもりではあるが、不十分である。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束について理解できるよう定期的に勉強会を行っている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ケアカンファレンスや日頃の話し合いで現状のことについて話し合っている。身体拘束委員会を三か月に一回行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	△	基本的には施設はしていない。契約時にも説明をしているが、命に係わることであるため理解して頂くには難しく話し合いを重ねながら理解を深めていく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	×	成年後見制度は学んでいるが制度の違いや利点などは理解しているとは言えない。具体的に相談支援はしていない。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	権利擁護を利用されるかたは現在までおられず、現在は地域包括センター等とは連携が取れていない。今後連携体制を築いていく予定。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故発生に対してマニュアルを作成している。ケアカンファレンスにて対応についても話し合っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	今年は新型コロナのために行えていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ケアカンファレンスにより事故報告、ヒヤリハット報告を職員間で検討再発防止につとめている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々のケアからまた、記録から状態の変化など共有し事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情マニュアルを作成している。全員が把握していない				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応している。また、市にも相談している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった時にすぐ対応できるだけ早く改善をしてその報告を話し合いを重ね信頼を得られるようにつとめている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	自分から訴えができる方は個別に聞いている。契約時に相談窓口等の説明をしており、面会時や電話でこちらから意見や要望・苦情など何かないかを尋ねている。また、玄関フロアに意見箱を設置している。	○		○	入浴時などの利用者との1対1となる場面で、職員はゆっくりとさりげなく意見を聞いている。家族からは、面会時や電話連絡時などを活用して、職員は声をかけて、随時意見や要望を聞くよう努めている。日頃から管理者は、職員と一緒に現場で業務を行っており、意見や提案を聞くことも多い。また、管理者は、年2回職員との個別面談を行い、意見を聞く機会も設けられている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	日常、面会時などに直接受けることもできる事や市役所等の窓口があることをおしらせしている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は主治医であり、たびたび来所するため、情報を共有、意見や気づきがあればその都度話し合い良い関係が築いている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月1回の業務カンファレンスにて意見交換をしている。また、日々その都度話し合いをしている。年2回の個人面接の時に話し合いができるようにしている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の目的意義は理解できている。評価を受けるということに対して話し合いをしている。				外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画は、運営推進会議の中で報告するとともに、目標達成に向けた取り組み状況も伝えている。コロナ禍の収束後には、家族や会議の参加メンバーに協力を呼びかけて、取り組み状況のモニターの協力をしてもらったり、利用者の様子を見てもらいながら、意見や助言を聞いたりするなど、職員間で検討を行い、より良いサービス提供に繋がることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成、業務カンファレンスで発表し取り組んでいる。業務カンファレンスや日々のコミュニケーションにて現状について話し合っている。意識統一までにはいたっていない。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果は市に報告、また運営推進会議でも取り組みを報告している。	△	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルは作成している。火災、地震、風水害 周知している。	/	/	/	事業所のある地域は、土砂災害の警戒区域に指定されているため、市と連携して避難訓練を実施している。訓練には、消防署に協力してもらい、指示やアドバイスをもらうほか、連携体制も図られている。災害発生時の避難場所は、市の地域事務所と設定して、実際に利用者と一緒に避難する訓練も経験している。利用者家族等、地域アンケート結果から、災害の備えに対して、家族や地域の十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後は、運営推進会議に合わせて避難訓練を実施したり、機関紙を活用して訓練の様子を掲載したり、事業所内に訓練の様子の写真を掲示するなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。さらに、今後は、運営推進会議の参加メンバーや、事業所前にあるコンビニエンスストアと災害対応などを話し合い、負担にならない程度の可能な範囲で、少しずつ協力体制が築かれていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災・避難訓練を昼間、夜間を想定して訓練を行っている。土砂災害による中山地域事務所への避難訓練を行った。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	設備、経路の点検はしかるべき機関で定期的に行っている。食糧、備品、物品等は期限など職員で点検している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	日頃からの連携や支援体制はできていない。今後、検討する必要がある。	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	他事業所との研修に参加し、ネットワークづくりや災害対策に取り組んでいる。土砂災害を想定し伊予市と共同訓練を行った。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地区の方に対してほとんど発信できていない。	/	/	/	年に数回、地域の高齢者や家族から、事業所に相談が寄せられることがあり、職員は適切に対応している。コロナ禍において、地域行事は中止されているが、市内の他のグループホーム等との連携を図るとともに、地域の駐在所に声をかけて、事業所の防犯訓練を行うなど、新たな繋がりがづくりも行われている。また、法人・事業所として、市行政や地域包括支援センター等との連携や協力を努めている。管理者は、「さらに事業所のことを地域住民に知ってもらい、地域との関わりを深めていきたい」と考えている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	この施設がどんな施設であるのかをご存じないかたが、多いので入居される、されないなど関係なく説明相談には対応している	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナで出来ていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力する意思はあるが受け入れの要請もない。今後はこちらからアプローチして受け入れていきたい。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナで地域活動が取れておらず検討している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 11 月 29 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3891000048
事業所名	グループホーム秦皇
(ユニット名)	くりユニット
記入者(管理者)	
氏名	松田 幸博
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>お1人、おひとりご自由に安心して暮らせるようにします。地域の方の力を借り共にこの地で仲良く生活出来るようになります。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 (目標)</p> <p>①地域行事には積極的に参加、事業所の行事に地域住民を招待する。地域行事に参加できる企画を立案する。 ②運営推進会議等で定期的に目標達成計画の状況を報告する。状況により助言を頂く。 ③地域への避難訓練の参加を呼びかける。地域参加の避難訓練を企画する。警察に協力を依頼する。警察署協力のもと防犯訓練を企画する。 (結果)</p> <p>①市町村と連携して災害避難訓練が実施できた。通報・メールでのネットワークを利用することができた。 ②新型コロナウイルス感染予防のため運営推進会議が開催出来ない。アンケート等にて意見を頂いている。 ③警察の協力のもと防犯訓練を実施することができた。今年度も開催する予定である。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>中山地区の幹線道路沿いのコンビニエンスストアの近くに事業所はあり、窓から自然豊かな山々の風景が眺められる。コロナ禍において、地域住民に新たに運営推進会議のメンバーになってもらい、感染状況を見計らいながら、約1年前の12月に集合形式の会議が実施されるとともに、実際に事業所内の様子を見てもらい、活発な意見交換が行われている。その後は、会議の文書開催が続いているものの、参加メンバーや家族にアンケート形式で意見を聞き、その結果を伝えるなど、少しでも有意義な会議となるよう工夫されている。また、新たに地域の駐在所に働きかけ、事業所の防犯訓練を行うなど、前向きに地域との繋がりが交流が図られている。法人は、南予方面を中心に、いくつもの介護サービス事業所の運営を行い、医師である代表者の往診や訪問看護との連携が図られ、医療面や終末期支援にも、利用者や家族、職員には安心感がある。さらに、法人・事業所として、待遇面や資格取得の支援、福利厚生の実充など、働きやすい職場環境が整えられ、10年以上の長年に渡り勤務している職員が多く、利用者や家族との馴染みの関係も築かれている。加えて、職員は利用者の希望に沿いながら、穏やかに楽しみのある生活が送れるよう支援している。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	コロナの関係で制限があり希望、意向にそうことが難しいが努力はしている。	○	/	○	入居時に、職員は利用者から思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。日々の関わりの中で、職員と利用者が2人きりになる時間を活用して、ゆっくりと話しを聞き、思いや希望を伝えやすい機会を設けるとともに、職員は思いに気づくことができるよう心がけている。また、希望を伝えにくい利用者には、家族や関係者から情報を聞くとともに、職員が表情や言動から、思いをくみ取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	「本人はどうしてほしいか。」を考えて職員間で話し合っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	コロナの関係で面会が出来ず家族様と話ができなかった。電話で聞く事はあった。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	記録を行っている時もあるが口頭での申し送りが多く思いの整理があまり出来ていない。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	思いを大切にしよう心掛けているが職員の思い込みや決めつけで関わっていることが多い。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	入居時に事前情報を頂いているが分からないことも多く後日知ることも多い。	/	/	◎	入居前に、アセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や趣味、生きがい、馴染みの暮らし方などの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から、情報を聞くこともある。アセスメントシートには、心身状況などの詳細な情報が記載されているほか、6か月に1回情報が更新され、職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	利用者と向き合い表情や訴えから心身の把握に努めている。職員の対応や本人の体調等、不安や不安定になる要因の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の様子・変化を記録し申し送りを行い把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	本人視点でなく、職員目線になることが多いがカンファレンスで話し合っている。	/	/	○	把握した情報をもとに、利用者本人が何を求めて必要としているかを、毎月実施するカンファレンスの中で、心身状態や課題などを話し合い、なるべく利用者の視点に立て、より良いサービス提供に努めている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	毎月モニタリングを行い、カンファレンスで話し合っている。日々の生活を観察しその人らしい生活が出来るよう努めている。またカンファレンスでも話し合っている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人や家族の思いを聞き利用者本意のプランになるように努めているが、負の点ばかりに着目した計画になっていることもある。	/	/	/	事前に、利用者や家族から意見を聞くほか、医師などの関係者の指示や意見、希望をもとに、職員間で課題を話し合い、計画作成担当者が意見などを取りまとめて介護計画を作成している。コロナ禍において、担当者会議には外部から家族などの参加ができず、電話などで意見を確認している。また、家族には、定期的にモニタリング表を確認してもらい、その都度意見や評価などの聞き取りをしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	生活の中で得た情報や家族からの情報をもとにカンファレンスで話し合い作成している。	/	○	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	本人の意思の把握は難しいが、家族等から情報を頂き、本人の合った内容になるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力は得られているが、地域の方との協力体制は十分ではない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎月のカンファレンスでケアプランを確認し、話し合いを努めている。				○ 利用者一人ひとりの介護記録の様式の上の部分に、介護計画の短期目標とサービス内容が転記され、記録する際に、職員は計画を確認しながら記載できるようになっている。また、サービス内容ごとに番号が付けられ、サービスを実施した際には番号を連動させて、介護記録に分かりやすく記載され、計画に沿った実施状況を確認しやすくなっている。記録の書き方には職員間で個人差が見られるが、職員は発した言葉や表情などの状況を、丁寧に分かりやすく記載に努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	毎日の記録は行っているが、具体的な記録が行えていない時もある。日々の個別記録は行っているが具体的な内容は欠けている。メモ等に記入し、話し合っている事もあるが個別に記録が出来ていないこともある。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	長期・短期共にカンファレンスを行い見直しをしている。				○ 介護計画の期間に応じて、計画を見直すほか、毎月実施するカンファレンスの中で、利用者一人ひとりの状況や課題の検討をしている。また、各利用者の担当職員が、他の職員の意見を参考にしながら、モニタリングを行い、利用者の現状を確認するとともに、管理者がモニタリング表などを活用して、状況の再確認をしている。さらに、利用者の状態に変化があった場合には見直しを行い、現状にあった介護計画の作成に努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月カンファレンスを行い個別のケアを話し合っている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人の状態に変化が生じた場合、家族に報告し現状に合ったプランを作成している。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月カンファレンスを実施している。緊急時にはその都度、緊急カンファレンスを行っている。				◎ 月1回ユニットごとに、ケアカンファレンスを実施し、利用者の状態や課題などを職員間で検討するとともに、情報共有が行われている。同じ日に、全ての職員が参加した業務カンファレンスが行われ、内部研修の実施ほか、全体で共有すべき内容などの周知が図られている。また、緊急の話し合いが必要な場合には、迅速な対応を行うとともに、他の職員にも内容を伝達している。カンファレンスで話し合われた内容は議事録に残すとともに、やむを得ず参加できなかった職員には議事録を確認してもらい、内容の共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	自分の考え等を意見として伝え話し合っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	特別な事情がない限り、全職員が参加している。公休時は時間外で出席している。記録を残しており、目を通してもらっている。又、口頭での申し送りもやっている。				
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌・申し送りで把握出来るようにしている。又、メモ用紙等を利用し全職員に情報が伝わるようにしている。文章では伝わらない時がある。日誌やメモに記入し、申し送り・共有している。				◎ 日々の申し送りを実施している。ユニットごとに、申し送りノートと業務日誌が設けられ、勤務前に職員は必ず確認するとともに、確認後にはサインを残し、職員間の情報共有に繋げている。また、職員は、相互に両ユニットの業務日誌に目を通して、日々の利用者の状況を確認するなど、事業所全体での情報共有に努めている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	意思表示の出来る方は可能な限り行っている。				○ 事業所では、入浴や食事の時間などの1日の流れがある程度決められて、各ユニットの分かりやすい場所に掲示をしている。職員は利用者一人ひとりに声をかけて、事前に決められた以外の他の時間帯の過ごし方の希望を聞き、自己決定してもらえるような支援に努めている。利用者から、「ぬり絵をもっとしたい、うどんが食べたい、息子に会いたい」などの意見が出され、職員間で検討をした上で、可能な範囲での早期の対応に努めている。また、職員は利用者の好きなことや得意なことを把握しており、歌や塗り絵、畑の世話など、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	入浴や食事等、自己決定の場を設けているが職員のペースになっていることがある				
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	声かけにて本人の意思の確認を行っているが、職員のペースになりがちである				
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者の喜ぶ言葉や行動を日々の生活で把握している				
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	△	本人の表情や行動から読み取る努力をしているが実行に移せていない場合もあり、個人差もある				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	△	勉強会や研修に参加しているが、それを常に意識して出来ている時もあるれば出来ていない場合もある。声かけ・言葉使い等に気を付けているが、家族のように接してしまうこともあり、配慮に欠けている場合がある。	○	○	○	○ 内部研修で、職員は利用者に対する人権や尊厳などを学んでいる。また、カンファレンスの中で、声かけやケアの配慮などを職員間で話し合うとともに、気になったことや良かったこと、感じたことの情報共有を行うなど、利用者の尊厳等への意識を高めている。さらに、職員は居室を利用者のプライベートな空間であることを理解して、入室時にはノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時にも、事前に利用者へ声をかけて、一緒に入室することを心がけている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	プライバシーには配慮しているが、本人の意思とは違い、見守りが必要だと考える場合は、見守り・介助を行っている				
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	訪室時にはノック・声かけを行うようにしている。				
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に個人情報に関する誓約書をおこなっている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日々家事等を手伝って頂き、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	利用者同士が、言い合いやたたくなどの感情をぶつけ合う場面が見られるものの、職員は早期に間に入り、意見を聞くなどの落ちつくような対応をしている。また、職員は利用者の性格や関係性を把握して、配席の考慮をしたり、仲の良い利用者同士と一緒に座ったりするなどの配慮に努めている。さらに、車いすを押すのを手伝ったり、立つのを援助したり、励ましの声をかけ合うなど、利用者同士の支え合いや助け合いを行う場面も見られる。訪問調査日には、一緒に体操をしたり、同じテーブルを囲んで、塗り絵や会話をしている利用者同士の仲睦まじい様子を見ることができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の関係性を把握し、会話・協力をしている時を大切にしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係性を理解し、席を決めている。時には席替えを行い、交流を図っている。トラブル時には職員が仲介に入っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	なるべくトラブルにならないようにしているがトラブル時には職員が仲介に入り、不安にならないよう努めている	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	家族や本人からの情報はありますが、家族以外の人間関係までは把握しきれていない。本人や家族から把握出来ている方もいるが、全員の方の把握までは出来ていない。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	友人等面会に来られている。又、一部の方は墓参りや結婚式等家族の協力のもと、外出をされている。コロナの関係で面会ができなかった。窓越しの面会等で工夫している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	コロナのため、できていない。デッキも暑い日が多く出ていない事がある。外出出来ない代わりに、デッキでの散歩・日光浴・外気浴を積極的に行った。	×	×	△	コロナ禍以前は、スーパーへ利用者と一緒に買い物に出かけたり、外出に出かけたりすることができていたものの、現在は外出の制限が設けられ、中止をしている。コロナ禍において、外出できる機会は減っているものの、日頃から事業所周辺を散歩したり、デッキに出て日光浴をしたり、敷地内にある畑の世話をするなど、職員は利用者が屋外へ一歩出て、外気に触れるとともに、気分転換が図れるよう支援している。また、季節に応じて、ドライブでコスモスや桜などの花を見に出かけるなど、人混みを避けて、遠出ができる機会を設けることもある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方々の協力を得た外出支援は出来ていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	施設内外の研修に参加し、理解を深めている。要因を取り除くケアはできていない。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握して、自らできることはしてもらい、なるべく手を出さずないように声かけや見守りを行っている。日々の生活の中で、車いすの使用の利用者にはなるべく自走してもらったり、洗濯物たたみや調理の手伝いをするなどの生活リハビリを取り入れたりと、散歩や体操をしてもらうなど、職員は利用者の心身機能の維持が図れるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	施設内外の研修や勉強会に参加し、理解を深めている。生活の中でレクリエーションや運動、生活リハビリを取り入れている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	日常生活において、出来る出来ないを見分けながら一部改良するように努めている	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人が日課としている手伝いを役割として捉え、強力で頂いている	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、調理、食器洗いなどの役割を、職員は利用者積極的に担ってもらえるよう支援している。野菜づくりが得意な利用者には、中庭の畑の世話や水やり、草引きなどの役割を担ってもらうとともに、利用者が職員に野菜栽培の方法を教える場面も見られ、感謝の言葉を伝えている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	楽しみや役割をもって生活出来ている方もおられるが全員は出来ていない。地域の中では支援出来ていない。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好きな洋服や髪型等を聞いて把握に努めている				各居室には、鏡付きの洗面台が設置され、ひげ剃りや化粧のほか、整髪や着替えなどの身だしなみを整えている利用者もいる。整容の乱れや汚れが見られた場合には、職員がさりげなく声をかけて、フォローを行うなどの清潔保持に努めている。また、2か月に1回訪問美容の来訪があり、希望に応じて、白髪染めやカラーの対応も可能で、利用者に喜ばれている。中には、ベッド上で過ごすことが多い利用者もあり、日中と夜間のメリハリが持てるように着替えを行うとともに、重度の利用者にも、負担の少ない着替えやすい衣類を着用してもらっている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	馴染みの理髪店に行かされている服や持ち物は家で使われていたものを持ってきて頂き整理している				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	気持ちに沿って支援しているが、職員の意向が強くなっている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時には服装や身だしなみには気を付け、その時々に合わせて服装を心がけている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	乱れや汚れに関してはさりげない声かけや介助に努めている。毎日の髭剃りや汚染時の更衣等、その都度更衣をして頂いている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	殆どの方が出張美容を利用されている。一部の方は家族と行きつけの美容室に行かされているがコロナの為、1回だけとなっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	洋服は家族の方に持って来て頂き、過ごしやすい服を着ていることが多い			○	
		h	職員の、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	調理は一緒に行っていないが、下ごしらえや後片付け等、職員と利用者と一緒に出来ることは行っている				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	コロナの影響でできていない			○	
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	後片付け等を進んでされ、日課や役割としてされる方もいる				
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	本人の好みの把握に努め、味付けや代替品等を用意して提供している				
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを取り入れている。	○	メニューに偏りはあるが、季節感を感じさせる旬の食材を取り入れるように努めている			○	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	利用者の嚥下状態や体調に合わせた食事形態で提供しているが、盛り付けの工夫には至っていない				
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	×	施設で用意している物を使用している			○	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	介助をする人が多くなったので出来ない場合もある。			○	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	ミキサー食の方に、メニューや食材等を伝えている。	◎		○	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者の希望や状態に応じた食事量や水分量を提供している。				
		j	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	毎食、食事量と水分量を記録しており、少ないと思われる方には食事以外にも水分やおやつを提供している。				
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士がいらない為、アドバイスは受けていないが、献立委員で検討を行っている			○	
		l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理器具の洗浄・消毒を行っており、食材の在庫管理を行っている。				
		m							

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解しており、毎食後、口腔ケアを行っている	/	/	/	毎食後、職員は利用者に対して声をかけ、リビングや居室にある洗面台で、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。自分で口腔ケアができる利用者の口腔内の状況を含めて、定期的に、職員は全ての利用者の口腔内を確認することができている。また、見守りやサポートをしている利用者には、磨き残しなどの確認を行い、異常が見られた場合には、早期の歯科医の往診に繋げている。さらに、定期的に、歯科医の往診があり、口腔ケアのアドバイスや指導を受けて、職員は口腔ケアの重要性を理解している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口腔ケア時、確認に努めているが把握出来ていない人もいる。自立の人は把握出来ていない場合がある。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医師等からアドバイスは受けていないが清潔を保つよう掛けている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	見守りと声かけを行い、必要時には介助にて行っている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	見守りと声かけを行い、必要時には介助にて行っている。又、洗浄剤等を使用して汚れを落としている。異常がある場合には家族に連絡・相談をし受診・往診をするかどうか対応している	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄は大切なことなので理解している 排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる	/	/	/	寝たきり状態の利用者は、常時おむつを使用しているものの、事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。また、カンファレンスの中で、利用者一人ひとりのパッドなどの排泄用品の適切な使用などの話し合いを行うとともに、状態に応じて、過剰なトイレ誘導や介助とならないように、可能な範囲で、自立支援に向けた検討も行われている。中には、夜間のみポータブルトイレを使用することで、パッドの使用量が削減されるとともに、利用者本人のストレス軽減に繋がった事例もある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	原因や影響について理解しており、定期的に排便があるよう支援している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表でパターンを把握し、日々の変化に気付けるように注意している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	誘導・声掛けを行い、トイレでの排泄を基本としている。 個々に合ったリハビリパンツ・尿取りパッドの使用を検討しているが、利用者によっては納得されていない方もいる。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	看護師に定期的に情報提供を行い、職員間でも検討し改善に努めている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	定期的なトイレ誘導・声掛けに合わせて早めの声掛け、誘導を行っている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	家族との相談は行いが、本人との話は出来ておらず、職員・家族の意向が強い	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中・夜間・外出時等、おむつを使い分け、個々に合わせて種類も使い分けしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	運動やマッサージ、飲食物等で工夫を行っている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴時には声掛け・確認を行っているが、入浴できる。時間が決まっている為、希望に添えていないと思われる。入浴の長さや温度は利用者に合わせている。職員本位が多い。	◎	/	△	その日の日勤帯の職員の勤務体制により、事業所では入浴できる時間帯が決められているものの、入浴回数などの調整が行われ、利用者は週2~3回入浴することができる。各ユニットに、一般的な個別浴槽が設置されているが、車いすの利用者も、湯船に浸ることができるように、職員はいすやシャワーチェアなどを効果的に使用するとともに、介助方法の工夫が行われている。また、季節に応じて、ゆず湯などの対応もしている。さらに、職員は利用者がゆっくりとリラックスしながら入浴できるように心がけた支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	1人ずつ入浴し、好みに合わせた温度・入浴の長さを取れるようにしている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で出来ること、更衣や洗身はしてもらうように出来ないところを介助するようになっている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	声掛けの工夫を行っているが拒否がある時は後日入浴して頂いていることもある	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックを行い、本人の状態を見るようにしている。入浴後は本人に合わせた体息・水分摂取を行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	個別の介護記録を記入し、把握している				事業所には、入居前から継続して睡眠導入剤などを服用している利用者がある。また、夜間の不眠や昼夜逆転が見られる場合には、すぐに薬剤に頼ることなく、不眠の原因を職員間で検討するとともに、医師への相談を行い、日中の過ごし方や対応などの指示やアドバイスを受けることもある。さらに、不眠が続く場合には、利用者の体調面を考えて、医師へ相談を行い、眠剤などを処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠時には話を聞き、不安を取り除いている 日中は運動や活動量を増やす取り組みをしている				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の様子や活動量・夜間の様子を確認し支援内容を検討している。 主治医と相談し、睡眠導入剤を使用している方もいる			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の希望や状態を見て、日中も休息を取って頂いている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望する方には、いつでも電話が出来るようにしている 手紙のやり取りは行っていない				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	本人から希望がない方に対しては支援出来ない				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話している時には、職員が席を外しゆっくり電話出来るようにしている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	本人に渡したり、代読を行っている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族には十分に説明し、理解・協力を頂いている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人が買いたい物やお金を使う事で楽しみを持つことの重要性を理解している。コロナ感染予防の為、外出できていない。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ感染予防の為、外出できていない。買い物先の理解や協力を得る働きかけはできていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談の上であるが、お金を持たれている利用者もいる。殆どの利用者が施設でお金を預かっている。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族・本人と相談の上、使い方等を決めている 殆どの方がお金を施設で預かっている				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	出納帳を作成し、確認してもらっている 毎月、領収書等を郵送している				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	訪問マッサージ等を利用している方もおられる。コロナの状況によって、その都度、検討している。	◎		◎	コロナ禍において、事業所では外出や面会などの制限が設けられ、利用者や家族から出された要望には、職員間で検討を行い、可能な範囲で対応をしている。また、感染状況を見計らいながら、家族と利用者が一緒に病院を受診するほか、法事などの行事に出かけられるよう対応したこともある。さらに、外部のマッサージのサービスを利用している利用者もいる。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	新型コロナウイルス感染予防の為、面会を中止している。	◎	○	△	国道沿いのコンビニエンスストアの裏に事業所はあり、道路からも建物が目につきやすくなっているが、コンビニの駐車場と間違えて事業所の駐車場に入ってくる車もあり、家族からも、「入り口が分かりにくい」などの意見も出されている。また、門扉には、事業所名が表示されているものの、迷う家族などがいるため、管理者は、国道沿いに看板などの設置を検討している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	季節の花や飾りつけを行っている。台所は対面式で、浴室やトイレは一般的な物となっている。フロアには畳の間もある。	○	○	◎	リビングの窓からは、自然な豊かな山々の風景を眺められ、共用部分には採光が入り明るく、風通しも良く、快適な空間となっている。両ユニットの間にはデッキのある中庭が設置され、利用者は気軽に屋外に出て、歌を歌ったり、体操や外気浴をしたり、畑の世話などを楽しんでいる。訪問調査日には、各ユニットにクリスマスの装飾が飾られ、華やいた雰囲気が感じられた。また、リビングの一角には畳スペースが設けられ、利用者が洗濯物たたみなどを行う場所として、活用されている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除を行い、清潔に気をつけている					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花や飾り等、工夫をしている					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアでは自由に畳や椅子で過ごし、デッキや玄関でも過ごされている					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	布団やテレビ・写真等、希望により自由に持ち込まれている	○		◎	居室にはエアコンやベッド、タンスのほか、鏡付き洗面台が備え付けられている。また、使い慣れた家具や雑貨、ラジカセ、テレビなどの希望の物を持ち込み、利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	施設はバリアフリーで、廊下やトイレに手すりがあり安全に生活できる。後付けで手すりを付けた場所もある。利用者が混乱や失敗があった場合は、職員で話し合い、片付けや配置等を工夫している			○	トイレや浴室の表示、居室入り口の名札は、利用者の目線に合わせて設置され、認識しやすいように工夫されている。リビングの時計は、どこからでも確認しやすいように、2か所設置されている。また、時計の近くには、1日のスケジュールと日付が貼られ、利用者が時間の流れを把握しやすくなっている。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	洗面台やフロアの棚に、花を置いて利用者が手入れをされることもあるが、新聞等はいつでも手に取れるところに物は置かれていない					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	基本的に鍵は掛けておらず、自由に出入り出来るようにしている。デッキにも自由に出入りされている。フロアの出入り口にはセンサーが付けられており、開け閉めで音で知らせるようにしている。外へ出ようとする方には声掛けや行動で対応している	◎	○	◎	日中に、玄関の施錠はしておらず、気候のいい場合には、網戸仕様にすることもある。また、夜間のみ防犯のため、玄関の施錠をしている。玄関から入ると各ユニットが入り口があり、設置されているセンサーチャイムで、職員は利用者や来訪者の出入りを把握しやすくなっている。さらに、外に出たい利用者には、職員が付き添って、一緒に屋外に出たり、落ち着くような声かけをしたりするなどの対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	帰宅願望や徘徊等により、外へ出ようとする方の家族とは話し合い、理解を図っている。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人のファイルがありいつでも確認できるようにしている					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	異常時や身体状態の変化があった場合は記録し、申し送りもしている					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医の往診や医療連携時に状態の報告や相談を行っている					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族・本人の希望する医療機関に受診できるようにしている。		◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に希望を確認しており、希望する医療機関を受診できるよう支援している					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果は家族へ報告しており、家族が受診へ行った場合は報告も受けている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	施設での生活・本人の特徴・日頃のケア等、情報提供をしている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院との情報交換、相談は出来ている。主治医・医療連携に報告して協力体制を図っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	主治医往診や医療連携看護師の訪問看護があり、気になることはその都度報告・相談が出来ている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	主治医・医療連携看護師に24時間、連絡出来るようになっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタルチェックを行い、状態の変化や異常の発見に努めている。状態の変化や異常があった場合には主治医・看護師に報告・相談が出来ている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	△	処方箋はファリング目を通せるようにしているが、全て把握しているとは言えない。変化があった場合、職員間で話し合い主治医・看護師に相談している。しかし家族には細かなことは伝わっていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬時、手渡しを行い飲み込みまで確認している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態を観察し、異常があった場合には気づけるよう努めている。処方が変わった場合には、特に気をつけている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時、緊急時と終末期の対応について話し合い意向を確認している 状態が変化した場合には、都度確認を行っている				事業所には、「重度化及び看取りに関する指針」があり、入居時に、家族等に対応できることの説明を行い、同意を得ている。医師である法人代表者は、事業所に往診等で来訪するとともに、医師や訪問看護との医療連携体制も整備され、利用者や家族の希望に応じて、看取り介護を支援している。また、利用者が重度化した場合には、医師から家族に説明を行うとともに、家族や主治医、関係者で方針の共有を行い、終末期の支援を行っている。必要に応じて、職員は家族の声を医師に伝えながら、連携を図っている。さらに、看取りに関する職員研修も行われ、職員への理解促進と負担軽減に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族や職員だけでなく、主治医・看護師にも相談を行い、方針を共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	主治医・看護師等、関係機関と協力し、管理者含め、職員同士助け合い、終末期まで支援している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時や状態に変化が見られた場合に、説明を行い、入院等の対応を話し合っている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期に安楽に暮らせるよう、主治医・看護師と連携を図っている 又、施設内外の研修に参加し、終末期への理解を深めている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族と話し合い心情の理解をし、支えになるよう努めている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	施設内外の研修に参加や勉強会を行い、学ぶ機会を設けている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	1回、実施した。取り決めはあるが日頃からの訓練は行っていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	テレビや新聞等で情報を入手している 又、地域の学校や病院等の施設からの情報も入手し、感染予防に努めている。地域の学校や病院等から情報を入手し、感染予防に努めている				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い、うがい等を行っており、マスク・消毒液等を玄関に置いて感染予防に努めている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	面会や外出等をよくされている家族もおり、よく話も出来ているが施設にあまり来られず任せっさりになっている方もおられる	/	/	/	コロナ禍において、面会等の制限が設けられ、家族が参加した行事の開催は自粛している。コロナ禍以前は、クリスマス会の行事に合わせて家族会を開催し、家族同士の意見交換や交流を図ることもできていた。また、感染対策を行いながら、家族とのガラス越しや玄関先での面会に対応をしている。毎月、事業所の行事や出来事、新入職員の紹介、日常を楽しむ利用者の様子の写真が多く掲載した機関紙をユニットごとに発行され、送付を楽しみにしている家族もいる。また、家族の来訪時や電話連絡時を活用して、職員は利用者の近況を伝えている。長年勤務する職員も多く、家族との馴染みの関係が築かれている。コロナ禍において、事業所へ家族が来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、事業所の出来事や運営上の事柄、職員の入退職などが十分に伝わっていないことが窺えるため、機関紙を活用して、より分かりやすく職員の入退職を伝えたり、職員の入れ替わりがない場合は、年度末にその旨を伝えたりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	新型コロナウイルス感染症予防の為、面会・外出等できなかった。	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、新聞の発行を行っている 面会時には近況報告をするようにしている	/	○	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	面会時には認知症の理解・対応等、説明を行う時があるが、これまでの関係を把握は出来ていない	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事等は広報紙に掲載しており、その他の事項は面会時等に説明している	×	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	転倒や精神面でのリスクを説明し、理解を頂いている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族の不安や、希望などの職員にも伝えたり相談出来る様になっている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	主に管理者が行っており、理解は十分に得られていると思われる。事前に文章にて案内をかけ、しかるべき日時に、会社側より説明会を開き同意を得る	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時に退去にあたる説明もっており、入院の長期化等の事例も伝えている	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	開設準備にあたり、事業所の説明等を行っていないが、運営推進会議や家族会等で随時説明を行っている	/	◎	/	コロナ禍において、多くの地域行事の中止が継続され、地域住民と利用者が交流できる機会は減少している。地域のスーパーの食材配達を利用したり、運営推進会議のメンバーに働きかけ、事業所に関わってもらったりするなど、コロナ禍においても、管理者は、地域との繋がりが継続できるよう努めている。また、地域の駐在所に働きかけ、警察官に来訪してもらい、防犯訓練などの指導も実現している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	新型コロナウイルス感染症予防の為面会や外出、行事の参加が出来なかった。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	以前より少なくなったように思う。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	地域の方が来られることは殆どない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらおうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	回覧板や集金時に挨拶や世間話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	殆どできていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	食材搬入に訪れる地元業者からの情報などをホーム運営に反映させている。地域資源は把握しているが、利用者の為に活用出来ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	△	12月に開催した時には、家族・地域の方の参加があった。コロナウイルス感染状況によって、開催可否を決め、開催できない場合はアンケートを実施している。	×	/	○	コロナ禍において、運営推進会議は書面開催が多くなっているものの、約1年前の12月に、感染状況を見計らいながら、対策を講じた上で、集合形式の会議を実施することができたこともある。集合形式の会議開催の際には、新たに参加メンバーになった地域住民や家族の参加協力があり、メンバー同士の顔合わせのほか、事業所内の様子を見てもらい、活発な意見交換が行われている。その後は、感染拡大防止のため、文書開催が続いているが、参加メンバーや家族にアンケートを実施して、助言や意見を聞いた上で、その結果を伝えるなど、書面開催においても、少しでも有意義な会議となるように努めている。また、会議には、地域のスーパーや理髪店にも、参加協力をしてもらい、事業所の広報啓発にも繋がっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	運営推進会議では都度近況報告を行い、外部評価の内容を報告した。その後の目標達成計画の内容、取り組み状況については報告していない。会議を開催出来ていないので、アンケートをとり、その結果を次回分で報告、又は文章で報告している。議事録を残しファイリングしているが、公表はしていない	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程や時間帯等を配慮し開催している。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	法人の理念を元に業務に努めている ホームでも理念を作り、実践できるよう努めている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念を施設内に掲示しているが、伝えきれていない	×	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者が、職員一人ひとりに合った研修に参加出来るよう取り組んでいる。	/	/	/	医師である法人代表者は、日頃から往診で事業所を訪れ、管理者や職員とのコミュニケーションを図ることができている。また、会社として、2か月に1回管理者会があり、代表者や担当部長などに現場の状況や職員から出された意見を伝える機会が設けられている。さらに、職員は資格取得や希望する研修に参加しやすい環境が整えられ、積極的に資格取得に励む職員がいるほか、介護福祉士の資格を取得している職員も多い。事業所には、働きやすい職場環境が整えられ、長年勤務する職員も多い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	資格取得や研修参加の支援を行っている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	時間外支給・賞与や希望休等、シフトの調整を行っている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホーム連絡会へ加入しており、研修や交流の場が作られている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者会議で話し合いを行っている	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	研修等で学び、理解を深めている 現場では虐待の無いように努めている。 日々のケアで不適切な言動、対応をしないように心掛けている職員同士声を掛け合い、注意し合える関係性を築いている。	/	/	○	内部研修やカンファレンス時に、具体的に不適切ケアなどの内容を職員間で話し合いをしている。どのような行為が不適切ケアに該当するかを理解して、職員同士も注意し合う環境も整えられている。また、職員は利用者へのスピーチロックを行われないように努めている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、管理者等に伝えるとともに、該当職員への確認を行い、注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々業務の中で話し合い、申し送り等を行っている	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の体調不良時には勤務交代を行っている 気になる職員がいる場合には、声を掛け話を聞いている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修への参加や勉強会を行い、理解を深めている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	廃止委員会やカンファレンス等で話し合う機会を作り、日頃より気を付けている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	拘束や施設の要望は今のところないが、利用者の状態が変化した場合には、拘束やその弊害についての説明をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	×	成年後見制度について学んでいるが、制度の違いや利点などは理解できていない。利用している方もおらず、相談等も出ていない				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	今まで利用された方はいないが、今後利用される方がいれば支援していく				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成している。ケアカンファレンスにて対応についても話し合っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	今年は新型コロナウイルスの為、行えていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書・ヒヤリハットを記入しカンファレンス等で話し合い、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の状態を把握しており、安全に生活出来るよう事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルを作成しているが全員が把握していない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合、サービス改善に取り組み納得を得られるように努めている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	日常生活の中で話をして意見や要望の把握に努めている。運営推進会議や家族会・面会時に話をし、意見や要望を頂いている	○		○	入浴時などの利用者と1対1となる場面で、職員はゆっくりとさりげなく意見を聞いている。家族からは、面会時や電話連絡時などを活用して、職員は声をかけて、随時意見や要望を聞くよう努めている。日頃から管理者は、職員と一緒に現場で業務を行っており、意見や提案を聞くことも多い。また、管理者は、年2回職員との個別面談を行い、意見を聞く機会も設けられている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	運営推進会議等で情報提供を行っている				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は主治医であり、往診や巡回を行っており話をする機会はある。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月1回の業務カンファレンスにて意見交換をしている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的は理解できている。年に1回は自己評価を行っている。				外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画は、運営推進会議の中で報告するとともに、目標達成に向けた取り組み状況も伝えている。コロナ禍の収束後には、家族や会議の参加メンバーに協力を呼びかけて、取組み状況のモニターの協力をしてもらったり、利用者の様子を見てもらいながら、意見や助言を聞いたりするなど、職員間で検討を行い、より良いサービス提供に繋がることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	結果を確認し目標を作製している。評価を通して意識の統一の機会としている				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	結果は市に報告している。運営推進会議でも取り組みを報告している。	△	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	取り組みの成果の確認をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している。周知している。	/	/	/	事業所のある地域は、土砂災害の警戒区域に指定されているため、市と連携して避難訓練を実施している。訓練には、消防署に協力してもらい、指示やアドバイスをもらうほか、連携体制も図られている。災害発生時の避難場所は、市の地域事務所と設定して、実際に利用者と一緒に避難する訓練も経験している。利用者家族等、地域アンケート結果から、災害の備えに対して、家族や地域の十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、運営推進会議に合わせ避難訓練を実施したり、機関紙を活用して訓練の様子を掲載したり、事業所内に訓練の様子の写真を掲示するなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。さらに、今後は、運営推進会議の参加メンバーや、事業所前にあるコンビニエンスストアと災害対応などを話し合い、負担にならない程度の可能な範囲で、少しずつ協力体制が築かれていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間を想定した避難訓練を定期的に行っている	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っており、南予防災の点検もある。非常用食糧・備品・物品類の点検は職員で行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署の方には訓練に立ち会ってもらい、連携を築いているが、地域の方との協力体制は不十分である。	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	他事業所との研修に参加し、ネットワークづくりや災害対策に取り組んでいる。土砂災害を想定し伊予市と共同訓練を行った。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	現在地域への取り組みは出ていない	/	/	/	年に数回、地域の高齢者や家族から、事業所に相談が寄せられることがあり、職員は適切に対応している。コロナ禍において、地域行事は中止されているが、市内の他のグループホーム等との連携を図るとともに、地域の駐在所に声をかけて、事業所の防犯訓練を行うなど、新たな繋がりがづくりも行われている。また、法人・事業所として、市行政や地域包括支援センター等との連携や協力を努めている。管理者は、「さらに事業所のことを地域住民に知ってもらい、地域との関わりを深めていきたい」と考えている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行えていない	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	開放し、活用出来ていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力する意思はあるが受け入れの要請もない。今後はこちらからアプローチして受け入れていきたい。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	ボランティア活動への参加は行えていない	/	/	○	